



社内レクリエーション

- 本社所在地：宮城県石巻市大街道北三丁目7番27号
- 事業概要：建設事業、再エネ事業、不動産事業、人材事業、新電力事業、保険事業
- 常時使用する従業員：38名
(グループ全体・2025年5月時点)
- 現在の売上高：19億円
(グループ全体・2024年5月期)
- 法人番号：1370301000660
- Web：https://www.shinto-group.co.jp

企業理念・100億宣言に向けた経営者メッセージ



代表取締役社長
新田 秀悦

新東は、元気な街をつくる会社です

「新東は「元気な街をつくる」会社です」をモットーに、そしてビジネスのキーワードは「再エネ」です。地域を元気に、そして日本を元気に。「私たちが暮らす地域を元気にしていきたい」が思いです。元気な街をつくるには、元気な会社が必要です。幸せに暮らす街には、雇用が必要です。経済を活性化させる働き手・労働力と経済を循環させる消費者・消費力が共に必要だと感じています。そのために私たち企業は、両輪を回すことが必要です。一緒に働くパートナーには、「インクルージョンとダイバーシティ」を実現させていきます。共に成長し、共に幸せになれる環境をつくります。そのような思いが、100億企業を作り上げる原動力と考えています。

売上高100億円実現の目標と課題

実現目標

5年で100億を目指します。そのために10億の部門を作り、それを10事業部に増やしていきます。それぞれを法人化にしていて、さらに、上を目指していきます。「変化に対応したものが生き残る」その思いで、チャレンジを続けていきます。すべての部門で100億を目指します。1年目売上10億利益20%、3年目30億20%、5年目50億20%と考えています。

課題

100億企業を作るうえで、一番の課題、問題は人材です。人材をどのように募集し採用し教育し、育てていくかが一番の課題になると思います。そのためには、新人教育、中堅教育、リーダー教育、経営者教育を進めます。チームごとに、サブリーダー、リーダー、サブマネージャー、マネージャーというシステムを作り、チームを取りまとめる事業部長をつくり、カンパニー長へとステップアップの仕組みを作っています。老若男女、日本人外国人、の区別なく、「インクルージョンとダイバーシティ」で進めていきます。

売上高100億円実現に向けた具体的措置

目指す成長手段

100億を目指すために、まずは、建設事業と再エネ事業とで、共に、50億を目指し、そして100億を目指します。建設事業については、公共工事のインフラ整備に力を入れ、住みやすい街づくりを目指します。且つ、災害復旧体制の構築。再エネ事業は、創電、発電、売電、給電、蓄電を柱に、特に、設備投資に関しては、発電事業に、風力発電、太陽光発電を、蓄電事業では、系統用蓄電池に設備投資し、またアグリゲート業務を行い電気の管理のできる企業となり、将来の日本のエネルギー政策において、地域での一翼を担います。そして再エネ関連事業で、海外へ特にASEANに進出していきます。

実施体制

石巻本社をとし、仙台支店、東京支店の二支店体制で。建設事業部に関しては宮城県内をビジネスエリアとします。再エネ事業部の営業エリアとしては、東北電力エリア、東京電力エリアに二拠点でをベースに、かつ各エリアを細分化して、営業をしていきます。営業活動部門としては、発電事業で、風力、太陽光を。エネルギー建設事業では、省エネ提案、電力料削減の提案をし、そして企業のRE100に向けた取り組みをサポートしていきます。

基本方針（売上高100億円実現に向けた具体的措置）

- ・10億（事業部）⇒50億（法人化・子会社）⇒100億（次なるステージへ）というホップ・ステップ・ジャンプという形を目指して各部門で、100億を目指します。事業部長から、法人化した会社の社長に抜擢。責任あるポストについて、達成感と充実感をもって、元気な会社をつくり、元気な街づくりをしていきます。
- ・主たる事業部門として6事業部を立ち上げ、進めています。①土木建設事業部（公共工事等の土木工事）、②エネルギー建設事業部（太陽光発電設備等の建設工事）、③BS事業部（経営課題の解決事業、人材・保険）、④イノベーション事業部（新しいことへの探究）、⑤再エネ事業部（創電事業、発電事業、売電事業、給電事業、蓄電事業）、⑥不動産賃貸事業部（不動産賃貸業）をベースに、選択と集中をしながら、成長していきます。
- ・⑤、⑥については、100%出資の子会社（シントウエナジー、新東不動産）として、連結納税体制にしています。
- ・100億へのみちは、10億を1個つくり、それを10個つくるという考え、10億を増やして20億へと大きくする。小さいサイズで考えて、それを大きくまたは、増やしていくという考え方です。
- ・地域において難しい人材に関しては、スポーツアスリート採用や外国人材を積極的に活用しています。

